

平成 2 6 年 度

川崎市水道事業会計決算概況

川崎市上下水道局

1 平成26年度 水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

水道は、市民の快適な生活や産業活動の進展に欠くことのできない都市の基幹施設であることから、安全で良質な水を安定して供給するとともに、災害時における安定給水の確保に向けて取り組んでまいりました。

水需要については、人口が年々増加しており、家事用等の使用では微増傾向にあります。大口の使用では産業構造の変化により減少傾向にあるため、水需要全体で見るとほぼ横ばいで推移しています。

また、「川崎市水道事業中期計画」に基づき、浄水場の統廃合を含めた再構築事業、基幹施設の更新、東日本大震災を踏まえた耐震化や老朽化した管路の維持管理などに取り組んでまいりました。

一方、財政面では、行財政改革などによる経費節減を推進しましたが、平成26年度からの新地方公営企業会計基準の適用にあたり、退職給付引当金を一括計上したことなどに伴い、当年度純損失を計上しました。また、再構築事業に関する事業進捗の影響などにより、単年度資金不足額が生じたため、累積資金を活用することで対応しました。

今後も、再構築事業や施設の耐震化などに伴う建設改良費が必要となりますが、これまでの累積資金の活用などで対応してまいります。

(業務の状況)

平成26年度末における給水人口は146万6,395人、給水栓数は81万9,659栓、普及率はほぼ100%です。

年間配水量は1億8,284万7,400^m₃、1日最大配水量は平成26年7月12日に記録した53万4,300^m₃です。

また、水道料金収入は税抜きで240億6,717万8,623円です。

(建設及び改良工事)

平成26年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、109億8,411万7,769円となっております。また、18億2,795万8,058円を平成27年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、耐震管路等整備事業費については、老朽化した管路の耐震化及び基幹構造物の耐震補強を行うもので、2号配水本管1200mm・1000mm布設替工事などを施行しました。平成26年度決算額は39億8,039万7,201円となっております。

施設再構築事業費については、再構築計画に基づき、生田配水池等更新工事、長沢浄水場第3沈でん池・活性炭接触池設置工事などを施行しました。平成26年度決算額は32億9,017万4,006円となっております。

その他の建設改良費については、送・配水管の布設及び更新、浄水場など諸施設の改良工事を施行しました。

2 平成26年度 水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	35,194,179,000	34,375,580,817	△ 818,598,183	97.7%
資本的収入	5,185,751,000	4,684,834,154	△ 500,916,846	90.3%
合計	40,379,930,000	39,060,414,971	△ 1,319,515,029	96.7%

イ 支出（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	36,883,908,000	37,866,775,675	982,867,675	102.7%
資本的支出	16,998,189,927	13,999,112,360	△ 2,999,077,567	82.4%
合計	53,882,097,927	51,865,888,035	△ 2,016,209,892	96.3%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	34,375,580,817	37,866,775,675	△ 3,491,194,858

収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益（△純損失） △ 4,131,326,541 円

イ 資本的収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	4,684,834,154	13,999,112,360	△ 9,314,278,206

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 9,314,278,206円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額607,821,170円、減債積立金1,303,078,208円、過年度分損益勘定留保資金4,796,406,775円及び当年度分損益勘定留保資金2,606,972,053円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 平成26年度単年度資金過不足額

（単位 円）

区分	金額	備考
当年度純利益（△純損失） (A)	△ 4,131,326,541	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 607,821,170 ・当年度分損益勘定留保資金 6,977,910,545 〔減価償却費 5,307,955,452 固定資産除却費 2,561,252,228 たな卸資産減耗費 25,555,129 その他非現金支出 1,569,705 長期前受金戻入 △918,421,969〕 ・修繕引当金収益化額 △ 1,058,901,549 ・退職給付引当金 4,214,468,012
資本的収支差額 (B)	△ 9,314,278,206	
補てん財源等 (C)	10,741,298,178	
単年度資金残額（△資金不足額） (A) + (B) + (C)	△ 2,704,306,569	

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

区 分	平成 25 年度 末 資 金 残 額	平成 26 年 度 単年度資金不足額	平成 26 年 度 末 資 金 残 額
資金残額	12,123,632,881	△ 2,704,306,569	9,419,326,312
うち退職 給付引当金	684,247,378	4,214,468,012	4,898,715,390

(4) 経営成績 (税抜額)

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	30,097,401,196	営 業 収 益	27,850,753,989
営 業 外 費 用	1,270,233,598	営 業 外 収 益	3,177,831,504
特 別 損 失	4,894,097,379	特 別 利 益	1,101,820,139
総 費 用	36,261,732,173	総 収 益	32,130,405,632
当年度純利益	-	当年度純損失	4,131,326,541
前年度繰越 利益剰余金	4,280,998,971	前年度繰越 欠損金	-
その他未処分 利益剰余金変動額	16,128,481,918		
当年度未処分 利益剰余金	16,278,154,348	当年度未処 理欠損金	-

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
水 道 事 業 会 計	— (資金不足となっていない)	20%

※資金不足比率は現段階での速報値である。

3 業務の状況

年度 項目	平成 26 年度	平成 25 年度	増△減(%)
給水人口(人)	1,466,395	1,453,372	(0.9 %) 13,023
給水柱数(柱)	819,659	808,224	(1.4 %) 11,435
普及率(%)	99.99	99.99	(0.0 %) 0.00
年間配水量(m ³)	182,847,400	183,689,700	(△ 0.5 %) △ 842,300
1日最大配水量 (m ³ /日)	(7/12) 534,300	(7/7) 549,600	(△ 2.8 %) △ 15,300
1日平均配水量 (m ³ /日)	500,952	503,259	(△ 0.5 %) △ 2,308
年間有収水量(m ³)	164,730,592	165,671,579	(△ 0.6 %) △ 940,987
1日平均有収水量 (m ³ /日)	451,317	453,895	(△ 0.6 %) △ 2,578
有収率(%)	90.1	90.2	(—) △ 0.1 P
配水管の延長(m)	2,399,827	2,397,871	(0.1 %) 1,956
水道料金収入(円) (税抜額)	24,067,178,623	24,395,455,865	(△ 1.3 %) △ 328,277,242

